

# 「心のうた」

～平成18年度応募作品から

阿久比町家庭教育推進協議会では、小学校四年生から中学生までを対象に、子どもたちが日々感じることを表現した詩を夏休みと冬休みの二回募集し、詩集「心のうた」として、冊子にまとめています。

平成十八年度の応募作品の中からその一部を紹介します。

詩集「心のうた」は、三月下旬から中央公民館本館と町立図書館で閲覧できます。ご覧ください。

問い合わせ先 社会教育課 ☎(48)1111(内262)

## 「しゃぼん玉」

ふっつと息をふきかけて  
しゃぼん玉よ  
夢をのせて飛んでいけつ  
心のしゃぼん玉は  
どこまでもどこまでも  
空高く飛んでるよ  
雨の日だって  
夢をのせて飛んでいるんだ  
がんばって頂上をめざせば  
きつと夢はかなうはず  
われても  
また新しいしゃぼん玉に  
夢をのせて  
空へはばたいていこう  
(東部小学校四年 佐藤真紀)

## 「友達って大切」

一人でなやんでいる時  
さみしい時  
友達か  
声をかけてくれる  
でも友達がいないと  
だれも  
声をかけてくれない  
一人って  
とつてもとつても  
さみしい  
友達っていいなあ  
友達って大切だよねえ  
(草木小学校五年 鈴木 萌)

## 「大人のもう少しは長い」

お母さんにまだつかないと聞いたら  
もう少しでつくと言われた  
言ってから30分  
まだと聞いたら  
「もう少し」と  
同じ答えがかえってくる  
大人のもう少しは長い  
もう少し  
もう少し  
もう少し  
もう少しといつてもつかない  
「いつになったらつくの」  
もう少し  
(英比小学校五年 宮木恭亮)



## 「生まれてきたこと」

お母さんの  
おなかから生まれてきた私  
それはたつたひとりの私  
生まれてきたから今がある  
生まれてきたから幸せがある  
生まれるってすばらしい  
生まれてきたことに感謝  
(南部小学校六年 榎本葉瑠香)

## 「最後のコンクール」

ゆっくり深呼吸をして  
最後の舞台に立つ  
大丈夫 私は一人じゃない  
舞台の上には仲間たちがいる  
大丈夫 私たちならできる  
後悔は絶対にしたくないんだ  
先生の指揮で 曲が始まった  
先生が笑っている  
そして その胸の前には  
小さなOKサイン  
なんだか 泣きそうになった  
(阿久比中学校三年 瀧塚友梨)